

## Basic Information / 基本情報 (ページ 2)

### Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2013/06/23 世界の問題を学ぶ事業  
2013/08/20 - 08/25 プラン構築事業  
2013/10/12 - 10/13 プラン実行事業

### Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

46 MEMBERS

### Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

ベナン共和国領事館・カンボジア領事館  
株式会社マイファーム  
コペルニク  
日本国内 26 大学  
京阪神地区各種団体 40 団体  
大阪大学 総長補佐 星野俊也教授  
大阪大学 ヴァージル・ホーキンス准教授  
過年度 PCY 卒業生

### Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1 万円なら one hundred dollar

\$108,632

### Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0 にしてください

なし

### In Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目 (もしあれば)

説明：

## 極度の貧困と飢餓の撲滅

### Who is benefited? 誰の為に？

説明：活動エリアに住み暮らす人々 人

次代を担うリーダーとなる若者

### Objective 目的

説明：(例1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

我われ大阪青年会議所は未来のリーダーとなる意欲をもつ若者に対して、下記の内容について、自らが主体的に取り組み、社会の一員として次代を担う人材となることを目的とした事業を行った。

- ①世界で起こる諸問題の実情を理解し、目指すべき理想の世界を思い描くこと
- ②国籍、宗教などの背景が異なる相手と相互に理解を深めること
- ③関係するあらゆる人びとを思いやる心を持つこと
- ④自らが主体的に取り組むこと

### Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

PCY (Peace Conference of Youth 世界学生平和会議) は世界平和実現のために主体的かつ積極的にアクションを起こすことができるリーダーの育成を目的としている。

次代を担う世界中の若者が「世界平和のために必要なこと」を導き出してもらうプログラムである。

世界各国から選ばれた学生が大阪で約一週間に共に過ごし世界平和実現の為に話しあうプログラムである。

世界で起こる諸問題を認識し、問題を解決することが世界平和につながる事を自覚する。

それぞれ異なる環境、国、宗教で生活する学生が相互理解と多様性を深める。

学生たちが世界平和につながる持続発展可能な仕組みを作り出し、自ら取り組む機会を提供するプログラムである。

### 【プログラム内容】

- ①世界各国から次世代を担う学生たちを募集し選考
- ②参加学生と我々自身が、世界平和と平和を阻害する問題について学ぶ機会の提供
- ③世界平和実現の為に各国の学生たちが他者の価値観や状況を受け止めて話し合う機会の提供
- ④世界平和実現のために各国の学生たちが国の違いを越えて互いを理解し話し合う機会の提供
- ⑤世界平和実現のために各国の学生たちが自ら取組める事業プランを考え出す機会の提供
- ⑥世界平和実現のために考え出した事業プランへの取組みを宣言し実際に行動する機会の提供。

### Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

JCI 大阪は、未来のリーダーとなる意欲をもった世界中の大学生に対して PCY 事業を行った

結果、下記の内容の意欲を育むことが明確に達成できた

- ①世界で起こる諸問題の実情や背景と自身との関係性を自覚した
- ②目指すべき理想の世界を思い描くことができた
- ③関係するあらゆる人々を思いやる心を持った
- ④自らが主体的に取り組む意識を持った

JCI 大阪は上記の結果を分析するために以下のアンケートを行った。

1. 世界の様々な問題の実情を知ることができた。 YES 88%
2. 世界の様々な問題が自身の生活環境とも関係している事を知ることができた。 YES 81%
3. グループワークを行い、問題を解決するために自らができることを思い描くことができた。 YES 74%
4. 他の参加者との信頼関係は深まった。 YES 100%

コメント：

自分の調べた観点だけではなく、人と共有することで、様々なことを知ることができた。

価値観の違いからなかなか進まなかったが、そのぶん信頼関係を深められた。  
異文化を持った参加者と議論するうえでお互い理解しなければならなかった。  
アクションは内容に問わず、実行すること。考えるより実行する。この2点を感じられた。

### Actions Taken 行動

説明：

2012年12月 PCY2013の企画  
2013年1月 2013年度JCメンバー選定&PCY2013スタッフ会議  
2013年2月 テーマについてのスタッフ会議&募集要綱決定  
2013年3月 各種団体への協力要請  
2013年4月 参加学生募集開始  
2013年5月 国内参加学生選考  
2013年6月 国内参加学生セミナー実施・海外参加学生選考  
2013年7月 メインフォーラム参加団体募集・決定  
2013年8月 PCY2013開催  
2013年9月 作成されたアクションプランの広報の準備  
2013年10月 大阪市民参加イベントにてアクションプランの発表&広報

### Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

海外からの学生の参加希望者は 100 以上の国・地域から約 3600 人以上であり、多様な文化圏の学生が参加した。

4 年続けての事業実施で参加学生の累計は約 200 人になり、参加学生間の国際的なネットワークが構築された。

期限を設定して、学生が多様な価値観に触れ、議論をし、意見を統一して行く事は、学生に大きな気づきを与え、自身を短期間で大きく成長させる機会となります。

事業の内容はメディアにも取り上げられ、

- ・ JCI 大阪が学生を世界平和の実現のために行動して行くリーダーへと養成する事業を行っている事

- ・ JCI 大阪が世界平和の実現のために活動している団体である事を地域に発信する事が出来た。

事業の結果、PCY 参加メンバーによる国政的なネットワークが自然と構築され、参加学生各々が、刺激しあいながらそれぞれの資質を向上させていく組織となっている。

ページ 3

部門 Best Local OMOIYARI Project

Objectives, Planning, Finance and Execution 目的、計画、財務、実施

What were the objectives of this program?

このプログラムの目的は？

我われ大阪青年会議所は未来のリーダーとなる意欲をもつ若者に対して、下記の内容について、自らが主体的に取り組み、社会の一員として次代を担う人材となることを目的とした事業を行った。

①世界で起こる諸問題の実情を理解し、目指すべき理想の世界を思い描くこと

②国籍、宗教などの背景が異なる相手と相互に理解を深めること

③関係するあらゆる人びとを思いやる心を持つこと

④自らが主体的に取り組むこと

以上のプログラムを推進する事で、OMOIYARI 運動の理念を理解し、地域から世界へ世界平和実現への運動を発信していく機会とした。

JCI 大阪は、様々な価値観に触れることで意識変革をし、自ら能動的に行動していく事で、自らの周囲によい影響を与え続けるリーダーを養成した。

How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのように JCI の活動計画と合っていますか？

PCY プログラムは下記 JCI 活動計画に一致している。

A. JCI 大阪は、PCY メインフォーラムを実施し、市民に世界平和を達成するためのプランを作った学生の成果を示し、地域で身近な面から世界平和への活動に参加可能であることを示した (IMPACT)

B. JCI 大阪は国籍、文化の異なる参加学生同士を交流させ、お互いを高め合い、異なる行動への動機付けとした (MOTIVATE)

C. JCI 大阪は PCY メインフォーラムを平和活動に従事している団体と共同で運営し、平和に向けての活動を協力して行っていく態勢を作った (COLLABORATE)

D. JCI 大阪は PCY プログラムを、地域の大学、ボランティア団体と協力して実施することで、それらの団体とのつながりを強くした。 (CONNECT)

Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算計画は事業の財務管理の為に効果的なガイドになりましたか？

過年度の実績と予算を分析し、学生の参加人数の増加を目指した。

学生の参加に関する費用の負担を可能な限り無くし、移動にかかる費用も負担することで、応募人数も増加した。

前年度参加人数 25 名 ⇒ 本年度参加人数 60 名

JCI 大阪は市民や地域へのアピールのために、地域のボランティア団体の参加費用を負担し、それらの団体と新たな協力関係を作り上げた。

How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は JCI のミッションとヴィジョンを推進しましたか？

JCI 大阪は JCI ミッションに則った以下の事業を推進した。

- ・世界中の学生に呼びかけ、世界平和について真剣に考える場を作り出した。
- ・世界平和についての意識を強く持った学生同士の交流を促進した。
- ・国籍、文化、宗教などの異なる学生同士がお互いを理解し、尊重することで自らの意識変革のきっかけとした。
- ・学生自らが考えたプランを発表することで、目標に向けて行動していく市民となった。

以上の結果として、事業の終了後も参加学生同士が国をまたいでつながり、学生間の国際的なネットワークができた。

※画像4つ必要

ページ4

Cooperation for the Sake of World Peace 世界平和のための協力

How did this project extend the presence of peace in your community?

どのように、このプロジェクトは、あなたのコミュニティで平和の存在を広げましたか？

我々は下記項目のプロセスを事業プログラムで達成し世界平和の存在を地域社会に広げた。

#### 1.事前準備

PCY 参加者の募集により、恒久的世界平和への認知度を高めた。

- ・まず JCI メンバー46名が世界平和について学んだ。
- ・次に大学やボランティア団体へ PCY プログラムについて伝えた。

エントリー： 国内学生 71名・海外学生 3600名

(応募添付資料： 公式の成績証明書・プロフェッショナルリファレンスからの推薦状・課題論文)

- ・国内学生 40名・在邦留学生 10名と JCI 大阪メンバー121名は、PCY で効率的成果を達成する礎を築くために、共に世界平和について学んだ。
- ・日本から世界にむけて平和貢献活動を展開している地元の団体と連携するため、メインフォーラムへの参加を依頼・募集した。

#### 2.PCY

PCY メンバーを平和を担う次世代のリーダーにするために開発した。

##### A. 価値再発見プログラム

- ・日常生活と世界との関係について学ぶ
- ・自身の活動結果は、自身の知らないうちに世界のどこかに何らかの影響を与える可能性があることを認識する。
- ・恒久的世界平和を実現するために目的を共有する。
- ・恒久的世界平和を実現するための持続発展可能な行動をとることを確認する。

##### B.グループワーク

- ・「世界平和につながる持続発展可能な仕組み」を実現する事業・行動計画を作成する。

### 3.メインフォーラム

一般市民に恒久的世界平和の実現へ向けた行動を起こす機会を提供するためにフォーラムを開催した。

- ・来場者に世界平和実現のための行動と継続の重要性を伝えるため講演した。
- ・来場者に世界平和について活動している団体の存在を再認識してもらった。

How was cooperation used to promote peace?

どのように、協力は平和を進めるのに用いられましたか？

行動計画は下記の協力によりスムーズに実行され、その後、世界平和を考える市民や世界平和のために行動する市民が増加した。

#### 1.大学やボランティア団体の協力

大学やボランティア団体が PCY プログラムの趣旨に賛同し、優秀な学生に PCY への参加を要請する広報活動に協力した。

#### 2.過年度 PCY メンバーの協力

過年度 PCY メンバー、自らの経験を今年度の参加学生に惜しみなく与えることによりが PCY2013 事業計画を作るためのグループワークに協力した。

それは関係の構築・相互理解・世界平和実現のための強い意思を開発する助けとなった。

3.地域のボランティア団体、NPO、NGO がメインフォーラムに参加し、世界平和のための活動を協力して行っていくことを市民に示した。

※画像4つ必要

What was the intended community impact?

事業実施によって、意図されたコミュニティへの影響は、何でしたか？

JCI 大阪は地域の学生を世界平和の実現のために行動していくリーダーへと変化させていく事で、以下のことを市民にアピールすることを想定した。

- ・自らの身近な問題の解決が世界平和の実現に影響を与えること。
- ・地域の市民が世界平和の実現に向けての活動に取り組んでいく意識を持つこと。

上記の検証を事業実施後のアンケート、メインフォーラムの来場者数調査にて行った。

Describe the actual community impact produced by this project

このプロジェクトによって発生される実際のコミュニティへの影響を記述してください

JCI 大阪は事業実施後、メインフォーラム来場者約 350 名に以下のアンケートを実施し、目的が達成されたかを検証した。

1. 世界には様々な問題が存在することを知り、その問題への関心が高まりましたか？

YES 91%

2. 世界の様々な問題が自身の生活環境とも関係している事を知ることができましたか？

YES 94%

3. 世界の諸問題の解決のため、取り組む学生の考え方について共感できましたか？

YES 97%

4. チャンスがあれば自身ができることを行おうという気持ちは高まりましたか？

YES 91%

※画像 4 つ必要

ページ 6

Impact on Local Organization LOM への影響

How did the Local Organization benefit from running this project?

どのように、LOMは、このプロジェクトを運営することから利益を得ましたか？

1.地域の大学やボランティア団体との協力関係の構築  
JCI大阪メンバーの活動によって、多くの学校や団体との間での連携が形成された。

2.OMOIYARI運動とJCI理念の推進  
PCY参加メンバーはPCYプログラムへの参加を通じ、OMOIYARI運動やJCI理念について学んだことを地域住民に広めることができた。

3.地域社会におけるJCI大阪とPCYの認知度向上  
PCY事業は世界平和実現のための国際交流として、地域のメディアにも取り上げられ、JCI大阪が世界平和のための活動を行っている事を地域へ広報する事が出来た。

4.JAYCEEの資質の向上という貴重な利益  
プロジェクトの準備を通じ、JCIメンバーはOMOIYARI運動への理解を深めた。彼らはJCI理念の実践をすることができた。

How did the program advance the JCI Mission?

どのように、この事業はJCIミッションを促進しましたか？

次世代のリーダーの育成  
PCY参加学生達はOMOIYARI運動の理念とJCIの理念を学んだ。  
彼らが未来のリーダーになるために、JCI大阪は学んだことを実践する機会を提供した。

- ・生活と時間を共有することで、意見の相違を慎重に議論することができ、相互理解をするトレーニングをした。
- ・思いやりを模索し、自身の影響力と責任に気付いた。
- ・他者を巻き込みながら問題解決を進めるために議論し計画した。
- ・理想だけではなく、事業を現実に実行して行く事の大事さを学んだ。

一般市民への機会の提供  
PCY2013メインフォーラムを開催した。

- ・地域で国際交流や世界平和のための活動をしている市民と協力してフォーラムを実施した。
- ・事業まで自身の可能性を自覚していなかった学生がより良い変化をした結果を市民に見せ、市民もより良い変化ができるという可能性を感じさせた。
- ・学生たちのPCY2013アクションプラン発表を通じて、市民が自ら平和への行動を起こせる機会を提供した。

※画像4つ必要

What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期の影響は、何ですか？

PCY 事業を通じ、我々は世界平和を作り出す次代のリーダーを育成した。

我々が期待する長期の影響は以下になる。

1. 恒久的世界平和のために PCY メンバーが継続的に行動すること。
  - ・ JCI 大阪と共に行動する PCY メンバーが個人的ネットワークにおいても、世界平和のために行動すること。
  - ・ 彼らの行動が恒久的世界平和に直接的な効果をもたらすこと。
2. 相互理解と思いやりの能力が向上すること。それらが彼らの人生に大きく影響を与えること。
3. PCY メンバーとその彼らの事業計画により、市民が長期的に我々の理念を理解すること。

What changes would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

PCY が組織として存続し恒久的世界平和を追求していくために、我々は継続的に行動し、運動を広げていく組織でなくてはならない。

そのために、

1. より多くの世界中の若者に PCY の存在を知ってもらい、PCY への参加機会を提供しなければならない。
2. そのために、PCY に対する市民や企業による支援体制を、より大きく機能的なものにしなければならない。
3. 4 年に渡って実施されてきた PCY への参加メンバーのネットワークをより機能的にしていく必要がある。
4. また、残念ながら PCY に参加できなかった若者たちが、学生たちの事業計画に合流し協力できる仕組みを構築しなければならない。
5. JCI 大阪に依存した組織ではなく、PCY 自体がその行動によって持続的発展可能である、継続的に独立した組織にならなければならない。

そうすることで、PCY 自体が有機的に恒久的世界平和のために行動していくリーダーを  
を生き続ける組織になりうる。

※画像4つ必要